

【実践報告5】

—小中連携による生徒の実態を生かした実践を通して—

1 対象集団の状況

本校は、豊明市の南西部に位置し、閑静な住宅街が多い。人口の社会増も落ち着き、学校規模は、ここ数年を500名半ばの生徒数で推移する予想となっている。生徒のより良い力の結集に力を上げた学年合唱・全校合唱は本校教育活動の中核となっている。生徒も大切にすべき伝統と意識しており、その取り組みはとても積極的である。また、各種行事では、生徒の活躍の場を確保し自己肯定感を高められるよう、全職員が研さんと創意工夫を重ねている。



【文化祭の中で行われる合唱会】

本校には三つの小学校から入学してくる。二つの小学校からは全員が入学をしてくるが、もう一つの小学校からは約80%が本校に入学し、残りの20%は隣接する中学校へ入学をしている。昨年度の1年生は、おとなしくて素直な生徒が多く、生徒指導上大きな問題は表面化していない。しかし、入学後1週間程通学ただけで不登校になってしまった生徒もいた。中学校という新しい環境になかなかじめない生徒がいることも事実である。

また、今年度の1年生もおとなしくて素直な生徒が多い。生徒指導上も大きな問題はないが、小学校から不登校もしくは不登校傾向にあった生徒は、学校に登校できずにいる。

2 実践内容

(1) 教師の現職教育

愛知県総合教育センターの先生を講師として招き、グループ・アプローチを授業に活用できるように、その指導法を学習した。

すべての教師が興味をもって取り組めたので、大変盛り上がり、中身の濃い現職教育となった。各グループの中には、情報を集約してグループをまとめた教師、みんなが迷ったときに指針を示した教師、意見を上手に聞く教師などそれぞれの個性(?)を發揮し、グループ内で自然に役割分担ができていた。仕事で見せる表情とは違う一面を出していた教師が、たくさんいたようである。



【授業参観でのグループ・アプローチ】

多くの教師が翌週の授業参観時に、グループ・アプローチを実践していた。

(2) グループワークトレーニング

ア 匠の里（4月実施）

(ア) ねらい

- ・ 楽しいグループづくりをする。
- ・ お互いに協力する体験をする。

- ・ 仲間づくりをすすめる。
- ・ グループで活動しているときの自分の動きに目を向けてみる。

(イ) 活動の内容

五軒の匠の家（和紙づくり、木工、機織り、竹細工、染めもの）が集まる「匠の里」について、「タヌキの彫刻のある家では、ヤマメを養殖しています」「和紙の家の北東の方角には、染めもの家があります」といった情報から、「イワナを養殖している家は」といったような課題を解決していく。

① 導入（5分）

グループ（5～6名）ごとに机を囲んで着席する。

- ・ ねらいと進め方の説明

② 指示書を読む（5分）

「グループへの指示書」を配って、説明する。

「情報カード」を各グループに配る。

③ グループで問題を解決する

各自の情報を口頭で伝えながら、与えられた課題の答えをグループで出す。

④ グループの結果及び正解の発表（5分）

グループが出した答えを順に発表し、次いで正解を発表する。

⑤ 振り返り（13分）

まず個人で振り返り用紙を記入してから、グループでわかちあう。

⑥ 全員でわかちあい、コメント（7分）

振り返りで話し合ったことをクラス全員でわかちあう。

生徒たちにインタビューしながら、教師から簡単なコメントをする。

(ウ) 参加者の様子

① 教師の感想

- ・ ゲーム的要素を含んだ教材なので、生徒が興味を抱き積極的に参加していた。また、失敗があってもあきらめずに試行錯誤を繰り返して進めることができた。
- ・ 相手の話を聞かないとゲーム（匠の里）について行けないので、話をしっかりと聞くようになった。目立った変化は見られなかったが、これまで話したことのない友人と楽しそうに話す姿が見られた。また、リーダーが分かってよかった。
- ・ 友達のことをあまり知らない時期だったので、これをきっかけに打ち解けたと思う。

② 生徒の感想

- ・ 協力して1つの問題を解決することがおもしろかった。
- ・ 難しかったけど、楽しかった。
- ・ 楽しかったので、またやりたい。
- ・ 時間内にできなかったので、役割分担をすればよかった。

(エ) 課題

内容を説明するのに時間がかかってしまい、グループで問題を解決する時間も振り返る時間も十分にとることができなかった。クラスの実態を考慮して、問題解決のための時間を決める必要がある。

イ 謎のマラソンランナー（6月実施）

(ア) ねらい

- ・ 自分もっている情報の中で今、何が大切かを判断し、グループの話し合いの進行状況

に応じて、必要な情報をタイムリーに提供できる力を身に付ける。

- ・ グループの中での自分の役割を見付け、積極的に課題達成へ向けて貢献できる力を付ける。

(イ) 活動の内容

情報カードには、マラソンをしている人の絵が描いてあり、それぞれゼッケンをつけている。課題は、先頭から数えて4番目に走っている人のゼッケンの番号を答えること。

① 準備・説明（5分）

グループ（5～6名）ごとに机を囲んで着席。

- ・ ねらいと進め方の説明

② 実施（25分）

「情報カード」を各グループに配る。

各自の情報を口頭やメモで伝えながら、与えられた課題の答えをグループで出す。

各グループの様子で気付いたことは、メモしておく。

早く終わったグループには、確認をさせ、「ふりかえりシート」に記入させる。

③ 結果発表・振り返り（10分）

各グループの答えを発表させる。

正解を発表する。（カードをつなげてみれば一目瞭然）

「ふりかえりシート」をもとに、グループごとに振り返りをさせる。

時間があれば、学んだことを発表しあう。

④ まとめ（5分）

今の体験から、協力して仕事をするとき「心がけること」をまとめさせる。

教師からコメントをつける。

(ウ) 参加者の様子

① 教師の感想

- ・ コミュニケーション能力の大切さを再認識できた。また、自分の心を開くこと、人の気持ちをよく理解することの大切さを理解できたようである。
- ・ グループ・アプローチ後は、グループの中で少しずつ自分を出し、小学校単位の集団からクラス内集団へと広がりを見せた。
- ・ 表立っての変化はそれほど感じないが、給食の時の様子等から男女の仲がよくなったようである。

② 生徒の感想

- ・ 話をすることよりも、他の人の話を聞くことが大切だと思った。
- ・ 話をしたことのない友達の良さを発見することができた。
- ・ 1回目に比べて、みんなの考えを出し合って進めることができた。
- ・ 今回は先回より難しかったが、意見を出して解決の糸口が見つかった。
- ・ 今回は、前回よりもしゃべりやすかった。

(エ) 課題

まだまだ、集団の組織（構成）によって、自分の本来の力を出せずにいる生徒がいる。



【謎のマラソンランナーの授業風景】

決められたカリキュラムの中でグループワークトレーニングを行う時間が作れず、こちらからの働きかけがあまりない状態で、継続して生徒たちの様子を確認していくことが難しい。

【22年度の実践】

(1) 教師の現職教育

今年度は、校内の先生が講師を務め、グループワークトレーニングの現職教育を行った。この先生は、グループワークトレーニングを学級経営に生かした内容の論文を書き、市の表彰を受けている。

はじめに、論文の内容について説明をしてもらった。グループワークトレーニング自体を知っていても、定義については知らない先生がほとんどで、みんな真剣に聞いていた。また、グループワークトレーニングが、主に三つの実習に分かれることも学んだ。

実際の実習では、最初に全職員が「会話なし」で、誕生日の順番に並んだ。身振り、手振りで自分の意志を相手に伝えることの難しさを学んだが、全員がとても楽しそうに参加していた。



【校内現職教育の全体説明の様子】



【会話をせず誕生日順に並ぶ】



【バラバラ紙芝居に挑戦】

二つ目の実習は、講師の先生が創作した情報カード実習であった。バラバラ紙芝居の絵を相手に見せずに、「言葉のみ」で情報交換を行い、順番に並べるというものであった。誕生日ごとのグループで行ったが、年齢の差は一切関係なく、どのグループも和気あいあいと行き、暖かな雰囲気にもまれていた。早く完成したグループは、振り返りもできた。自分を振り返るだけでなく、グループとしての振り返りもでき、頑張った先生には暖かな拍手が送られていた。

昨年度と同様、翌日の授業参観で多くの先生が実践していた。

(2) グループワークトレーニング

ア バラバラ紙芝居を完成させよう（4月実施）

(ア) ねらい

- ・ 楽しいグループづくりをする。
- ・ お互いに協力する体験をする。
- ・ 仲間づくりを進める。
- ・ 自分もっている情報のなかで今、何が大切かを判断し、グループの話し合いの進行状況に応じて、必要な情報をタイムリーに提供できる力を身に付ける。
- ・ グループの中での自分の役割を見付け、積極的に課題達成へ向けて貢献できる力をつける。

(イ) 活動の内容

情報カードには、ネコが魚釣りをしている様子が描かれている。課題は、しっかりしたストーリーになるように順番通りに絵を並べること。ただし、3枚余分なカードが入っている。

① 準備・説明（5分）

グループ（5～6名）ごとに机を囲んで着席。

ねらいと進め方の説明

② 実施（25分）

「情報カード」を各グループに配る。

各自の情報を口頭やメモで伝えながら、与えられた課題の答えをグループで出す。

各グループの様子で気付いたことは、メモしておく。

早く終わったグループには、確認をさせ、「ふりかえりシート」に記入させる。

③ 結果発表・振り返り（10分）

各グループの答えを発表させる。

正解を発表する。

「ふりかえりシート」をもとに、グループごとに振り返りをさせる。

時間があれば、学んだことを発表し合う。

④ まとめ（5分）

今の体験から、協力して仕事をするとき「心がけること」をまとめさせる。

相手の話を聞くときに気を付けなければならないこと、相手に話をするときに気を付けなければならないことを考えさせ、教師からコメントをする。

(ウ) 参加者の様子

① 教師の感想

- ・ ネコの絵もかわいく、どの生徒も意欲をもって参加できていたが、開始直後は、リーダーの資質がない生徒ばかりが集まったグループは、ぼそぼそと話すような雰囲気であった。
- ・ 生徒たちは、コミュニケーションが意志や情報を伝える上でなくてはならないものだとすることを、確認できたようである。
- ・ 昨年度と同様に、グループ・アプローチ後は、グループの中で少しずつ自分を出し、小学校単位の集団からクラス内集団へと広がりを見せた。

② 生徒の感想

- ・ 話の順番を考えることが楽しかった。
- ・ 猫の絵がかわいかったので、楽しくできた。
- ・ グループの中の違う学校の友達と仲良く慣れた気がする。

上記の「バラバラ紙芝居」以外に、「匠の里」や「謎のマラソンランナー」も、実践している。



【授業参観でのバラバラ紙芝居】

3 生徒の変容

(1) 小学校との連携

児童・生徒交流	小中連携
<ul style="list-style-type: none">・部活見学（7月）・授業参観（2月）・先輩（生徒会役員）からの説明会（2月）・特別支援関係の児童の授業参観（随時）	<ul style="list-style-type: none">・生徒指導主事，教務，校務主任が小学校にて情報交換（定期テスト時）・中学校図書委員会が小学生向けに本の紹介カードを送る。（2学期）

1学期末に小学6年生を対象に，部活動を公開している（小学校の先生が児童を引率）。夏の大会前の一番熱のこもった練習を見学してもらい，中学校の部活動への興味を高めてもらうことをねらいとしている。

2月に小学6年生を対象に，学校説明会を行っている（保護者向けとは別日で）。その際，小学生に授業参観を廊下からしてもらい，中学校の授業の様子を肌で感じてもらっている。また，生徒会役員からの学校説明会の後は，部活見学を再度行っているが，夏の見学を生かし，興味のある部活を意識して見学してもらえるようにしている。

また，生徒会役員による学校説明会は，生徒が作ったパワーポイントと学校行事のビデオを視聴させ，小学生が中学校生活の1年間をイメージできるように工夫されている。

中学校の定期テスト時に，生徒指導主事が各小学校を訪問して，情報交換を行っている。

不登校等の生徒が出た場合は，小学校と連携をとりながら対処している。

(2) 個々の生徒の変化

中学校へ入学する前に，各小学校で「中学校での生活で不安なこと」をアンケートしてもらっている。このアンケートに新1年生の担任が目を通し，新入生が抱えている不安を少しでも取り除けるように，配慮している。方法としては，学級開きのときに中学校生活の現状を伝えたり，特に不安が大きい生徒に対しては個別に声をかけたりしている。

小学校でのアンケート結果の内容や入学当初の様子から，特に配慮が必要と思われる生徒を抽出した。

【21年度の様子】

ア 生徒A

① 入学当初

クラスになじめず，一人でぼつんとしていることが多かった。理科のグループ学習では，班員に自分から声を掛けることができず，協力する姿は見られなかった。

② 小学校6年生時に持っていた不安

友達ができるか心配。勉強ができるか心配。

③ 1学期末の様子

男女を問わず声を掛けられるようになった。明るく受け答えができるようになった。授業中も積極的な姿が見られるようになり，理科の実験などでは，班員と協力して片付けを行っていた。

④ 変化のきっかけ

保健委員として、毎朝クラスの前に出て健康観察を行うことで、自信が付き、学級にも慣れてきたと考えられる。

イ 生徒B

① 入学当初

孤立気味で、自分から級友に話しかけることも少なかった。発言は後ろ向きであった。特に自分がかかわる事柄などで、自分が無駄と判断したことに対し、「こんなことをしても仕方ない」と力強く主張していた。理科のグループ学習では、自分勝手に実験を進めてしまい、グループの仲間と協力する姿勢は見られなかった。

② 小学校6年生時に持っていた不安

友達がたくさんできるか、授業について行けるか不安。いじめられるかもしれないから心配。

③ 1学期末の様子

後ろ向きな発言はほとんどなくなってきた。いかに自分がクラスに貢献できるかを考えて行動し、前向きなボランティア精神が育ってきたように感じられる。やさしく思いやりのある発言や行動は、クラスの仲間に受け入れられ、しっかりと自分自身の存在を確保でき、自信につながっている様子である。理科の実験でも、自分勝手な行動は影を潜め、グループの仲間が終わるまで待っているなど、協調性が見られるようになった。

④ 変化のきっかけ

自分自身の良い発言が、グループ内やクラスの中で認められたことにより、「気づき」があったと考えられる。

ウ 生徒C

① 入学当初

授業中に独り言を言ったり、場の空気を読めない発言をすることが多く、他の生徒からもあまり受け入れられていなかった。グループ学習などでは、他の班員からいわれるままに動き、主体的な活動は見られなかった。

② 小学校6年生時に持っていた不安

なし。

③ 1学期末の様子

自然と不必要な発言も減った。また、クラス内に自分の居場所を見つけたように感じられる。授業にも集中できるようになってきて、理科の実験では、グループの仲間と相談をしながら活動する場面が見られるようになってきた。

④ 変化のきっかけ

自分自身を理解してくれる友人が見つかったことにより、本人の気持ちが落ち着いたからだと考えられる。

【22年度の様子】

ア 生徒D

① 入学当初

与えられたことや指示されたことは黙々とこなすが、積極的に働き掛けることはなかった。常に、周りの様子をうかがっている様子で、自分の意志表示はあまりなかった。

② 小学校6年生時に持っていた不安

どんな友達ができるのか。先輩に知り合いがないので不安。今までに、先輩と後輩という関係がなかったので不安。

③ 1学期末の様子

係の仕事や部活動に熱心に取り組み、積極的に活動ができるようになってきた。困っている子に救いの手をさしのべるなど、優しい面も見られるようになってきた。グループ活動では、話し合いに進んで参加する姿が見られる。

④ 変化のきっかけ

中学校に不安はあったものの、期待していた部分も多くあった。中学校がその期待どおりの場所だったという安ど感から、学校や学級に慣れてきたと考えられる。

イ 生徒E

① 入学当初

話を聞いている最中はよそ事を考えているような態度で、真剣に物事に取り組む姿勢はあまり感じられなかった。また、仲間と協力するというよりは、一人でボーッとしていることが多く、指示は一度で聞けなかった。

② 小学校6年生時にもっていた不安

授業について行けるか不安。新しい友達が作れるか不安。先輩たちと仲良くできるか不安。

③ 1学期末の様子

一人でボーッとしていることはほとんどなくなり、指示も一度で聞けるようになった。授業中は集中して取り組めており、課題などは素早く仕上げている。友達関係も良好で、放課は気の合った仲間と楽しそうに過ごしている。

④ 変化のきっかけ

1学期の中間テストでよい結果だったことが、自信につながったようである。また部活動が、想像以上に楽しく、先輩達とうまく人間関係をつくることができたことも、本人にとって大きかったようである。

ウ 生徒F

① 入学当初

いつもにこにこしていたが、自分から積極的に級友に話し掛けることはなかった。どんなことでもいやな顔をせずに頑張っていた。

② 小学校6年生時に持っていた不安

他のクラスのこと仲良くできるか不安。友達ができるか不安。勉強が苦手だからついて行けるか不安。部活で先輩達に迷惑を掛けないか不安。いじめられないか不安。

③ 1学期末の様子

明るく元気に生活をしている。授業に真剣に取り組み、先生の話をしっかり聞いている。理科の実験では、準備や片付けを進んで行き、意欲が感じられる。部活動も先輩と仲良くなり、楽しみながら参加している。

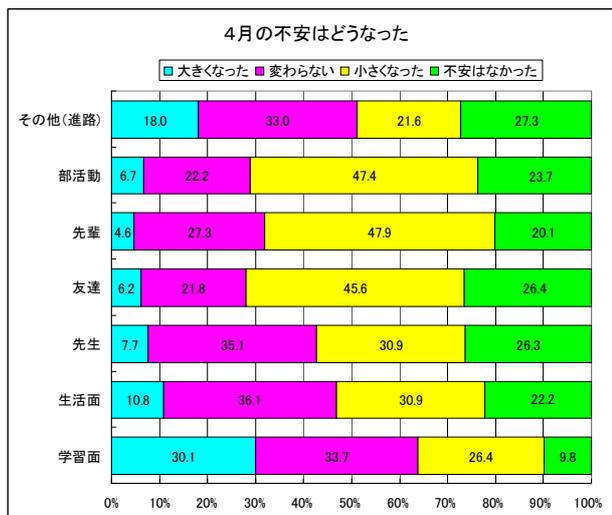
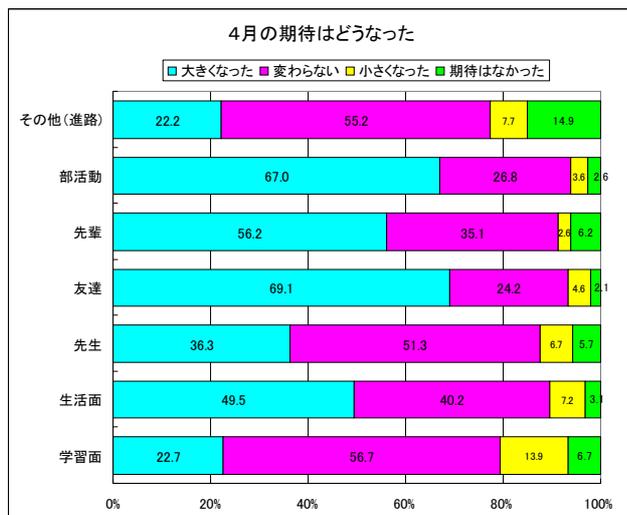
④ 変化のきっかけ

グループワークトレーニングを通して、みんなと協力し、助け合うことの大切さが分かったからだと答えている。

以上のように、不安が大きかったり、教師が心配していたりした生徒も新しい環境に慣れて、楽しく学校生活を送ることができている。

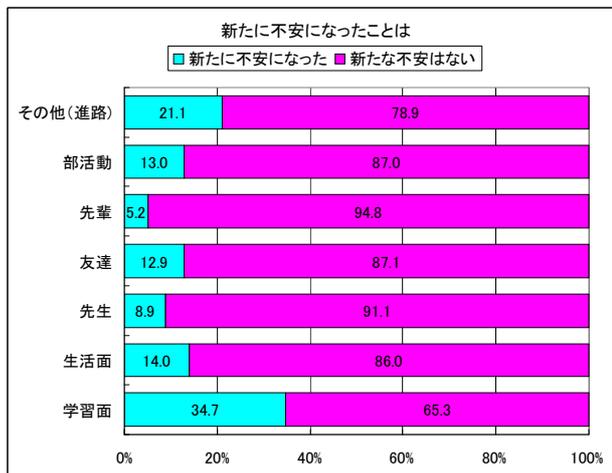
4 考察と課題

【適応度調査結果 1】



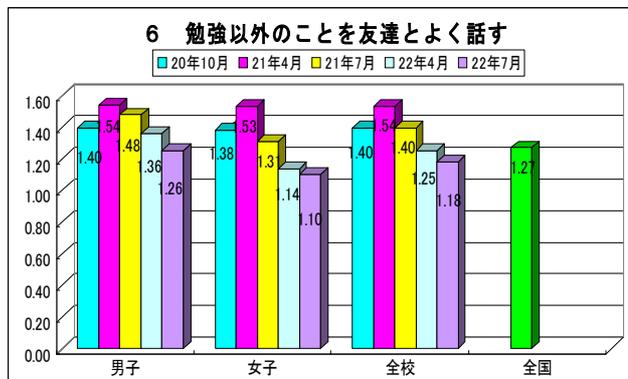
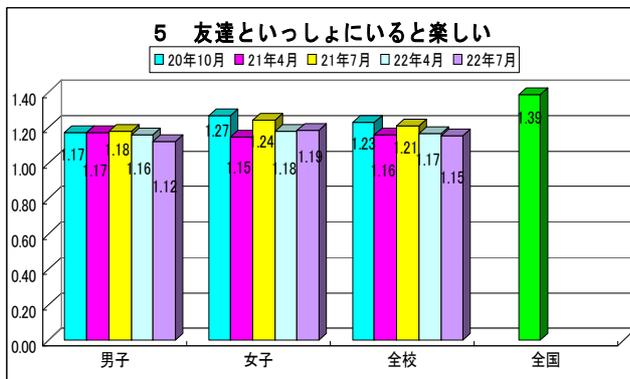
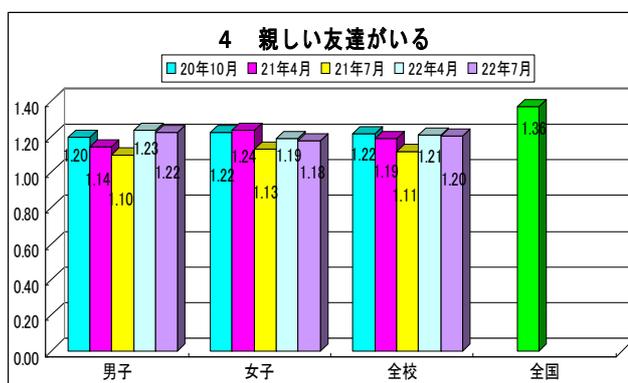
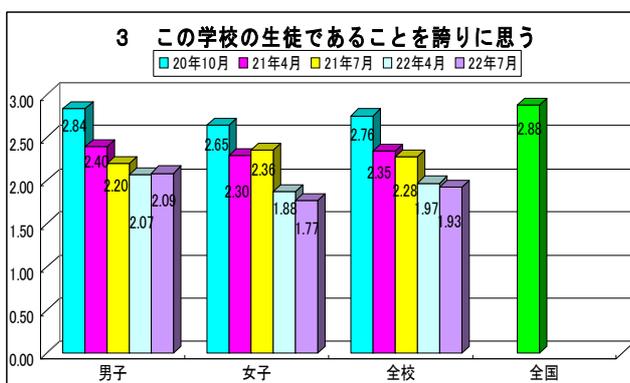
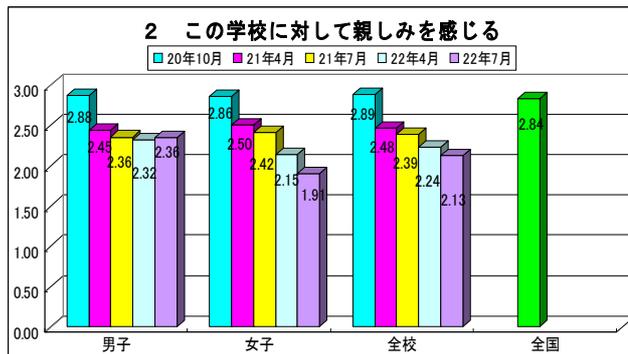
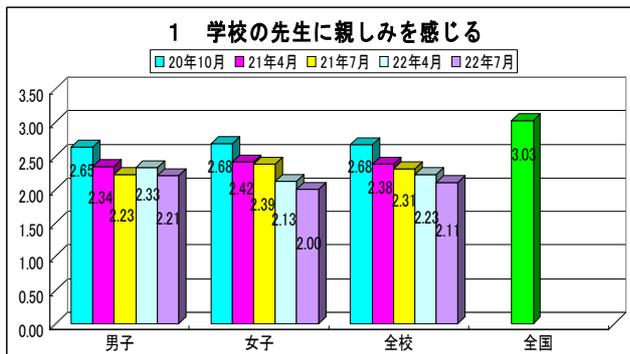
入学直後と、1学期末に1年生向けの調査を行った(1学期末には、2回以上のグループワークトレーニングを行っている)。適応度調査結果1から、入学前に不安を感じていた項目のうち、対人関係に関する「先輩、友達、先生」については、不安が大幅に小さくなっている。その理由として、先生については「厳しいと考えすぎただけであって、実際はそんなに大したことはなかった」というものが多かった。

友達や先輩については、「中学校生活に慣れた」



「周りの人に相談して、解決した」などが主なものである。また、「新たに不安になったこと」、「4月の期待はどうなった」という調査についても、人間関係に関するものは良い結果が出ている。

【適応度調査結果 2】



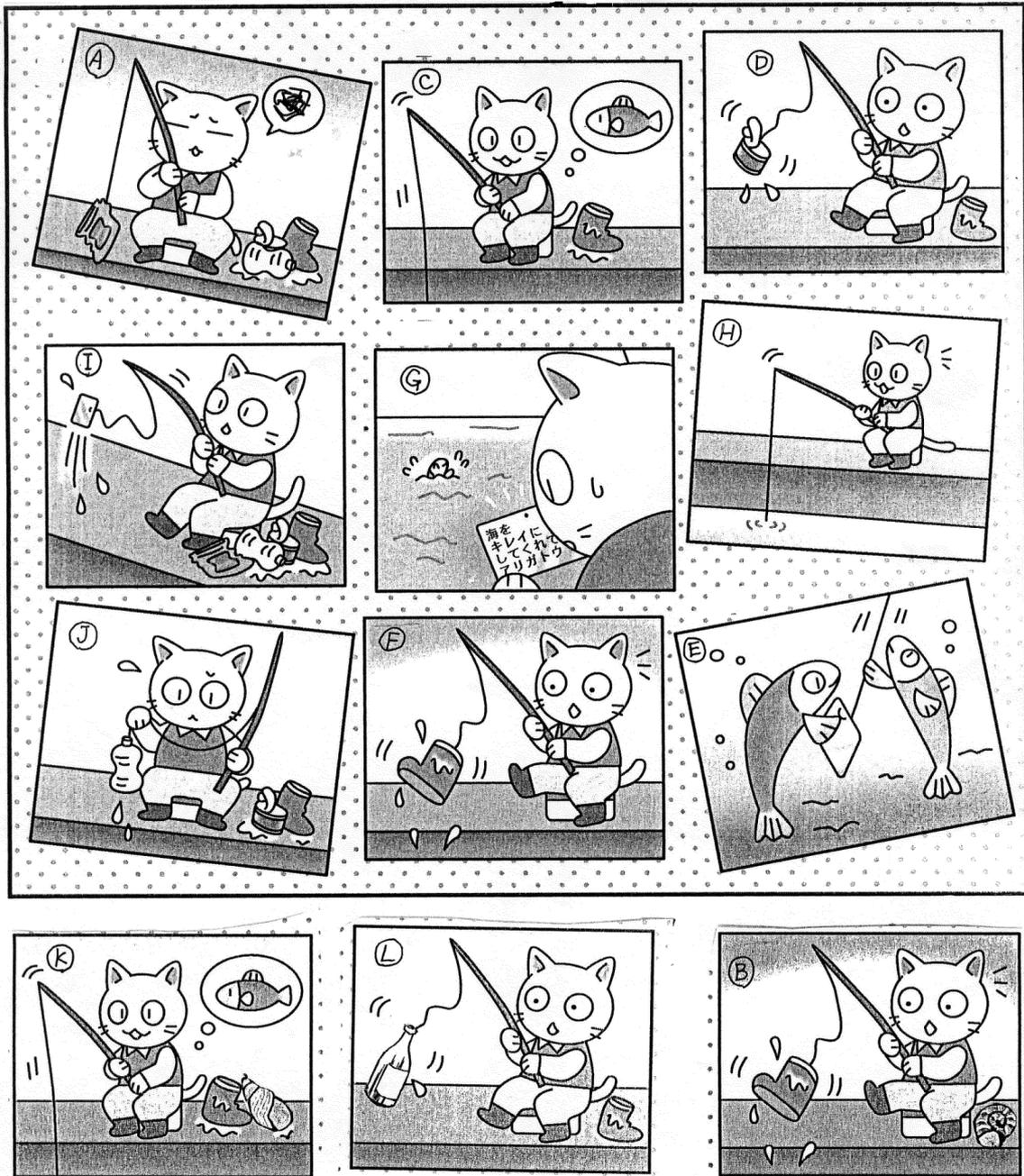
また、適応度調査結果 2 より、4月よりも7月の結果が、そして21年度よりも22年度の結果の方がおおむねよくなっている。特に、「学校の先生に親しみを感ずる」、「この学校に対して親しみを感ずる」、「この学校の生徒であることを誇りに思う」等は、環境に慣れるだけでは高まってこない感情である。これは、グループワークトレーニングの効果が十分に現れ、生徒自身が人間関係を上手に構築し、学校が生徒達にとって居心地のよい場所になったからだと考えることができる。

課題としては、我々教師がグループワークトレーニングをもっと知り、精通することが挙げられる。グループワークトレーニングに慣れた先生の方が、生徒への説明を短時間で済ませ、振り返りの時間をたくさんとっている。

また、学校のカリキュラムの中でのグループワークトレーニングの位置付けを明確にしていくことが求められる。

そして、環境に適応できない生徒に現れる小さな変化を見逃さない感性を磨くことと、それに対応できる力量を高めていくことも課題とし、今後も研修を積んでいきたい。

5 エクササイズ資料



出典（資料）脳が歓ぶ推理パズルキング2009， 5月号（ASH作）インフォレスト株式会社

参考資料

『協力すれば何かが変わる 〈続・学校グループワーク・トレーニング〉』 (遊戯社)

『「脳が歓ぶ推理パズルキング2009， 5月号（ASH作）」』 (インフォレスト株式会社)

『Creative School』 (プレスタイム社)